

Noguchi Times

Vol.
31
2023.11



2023年3月に行われたクリニカルクラークシップの参加者たち

CONTENTS

Philosophy —私たちの想い—	01	管理栄養士向け スキルアップセミナー	06
医師の卒後教育を实践 —野口グラウンドラウンド—	02	第9回『浅野嘉久賞』授与式・受賞者インタビュー	07
クリニカルクラークシップ参加者の声	03	Jefferson病理での研修	09
第3回 Asano Lecture を実施	05	40周年記念特集 Vol.3	10

Philosophy

私たちの想い

患者様優先の医療を目指して

Compassion

-Humanity & Empathy in Medicine-

米国財団法人野口医学研究所について

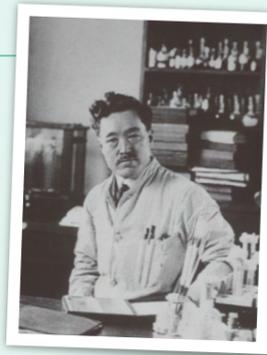
医師や医学生を始めとした医療従事者を対象に、米国での臨床留学プログラムを提供しています。

これまでに多数の医師・医学生の研修を支援し、患者様の痛みや苦しみに共感し

「私たちに治させて下さい」という精神で寄り添うことができる医療人の育成をしています。

野口英世博士の名言

過去を変えることはできないし、
変えようとも思わない。
なぜなら人生で変えることができるのは、
自分と未来だけだからだ。



医師の卒後教育を実践



卒後1年からの
指導医
対象

野口グランドラウンド

2021年から開始したオンラインセミナーで、「生涯教育」という概念を基に、卒後1年～指導医までの全ての医師を対象としています。「学び」は学生だけのものではなく、日々変化する時代に取り残されないように、生涯を通して行う必要があります。当セミナーでは、月に一度、現役の医師が情報のアップデートやスキルアップを図れるよう、旬の話題をテーマに、現場で実践できる内容についてお話しています。

第21回「感染症診療の基本“熱病に熱病”2023」

2023.2.8(水) クイズを交えたライブとビデオ上映を組み合わせた2部展開となった矢野先生の講義では、抗菌薬の基本や学び方に加え、具体的な症例を通して薬の選択の仕方についてレクチャー。数多く存在する抗菌薬の中から、押さえるべき数種をリストアップして紹介して頂いたり、選択の際に重要となる考え方のポイント等についてお話して頂きました。



講師：矢野晴美先生
国際医療福祉大学医学部 教授
医学教育統括センター
副センター長
感染症学

第22回「リウマチ膠原病コンサルト/リウマチワールドへようこそ！」

2023.3.8(水) ①リウマチ膠原病に親しむこと、②比較的一般的な疾患の病態像を理解し、疑い、迫れるようになること、③知識を整理して後輩に教えられるようにすること、を目標に基本となる内容をかみ砕いて説明し、診断までの道のりとして重要なのは「疑うポイントをしっかり把握した上で他疾患を除外し、振り返って検討することである」とまとめられました。



講師：宇都宮雅子先生
東京都立多摩総合医療センター
リウマチ膠原病科 医員

第23回「高Na・低Na血症の輸液管理 -ビットホールと役立つ豆知識-」

2023.4.12(水) 電解質管理のスペシャリストである志水先生はジェネラリスト教育や若手教育にも精力的に取り組んでおられ、書籍も多数執筆されています。今回は、低ナトリウム血症と高ナトリウム血症の問題点に対し、それぞれの原因や対処法、モニターすべき項目などについて、限られた時間の中でコンパクト且つシステムティックにお話いただきました。



講師：志水英明先生
大同病院 副院長
腎臓内科 部長

第24回「市中肺炎 -感染症系救急医からの視点」

2023.5.10(水) 救急医療科において感染症専門医として従事されている三池先生は、世界中の医療者との共同研究メンバーでもあり、研究活動にも精力的に取り組んでおられます。感染症診療の原則や診療の質を高めるためのポイント、市中肺炎の診療、基本となる診療の型について、初期研修医の方でも解りやすいよう丁寧に解説していただきました。



講師：三池慧先生
聖マリアンナ医科大学
横浜市西部病院
任期付助教

第25回「周術期マネジメント総論」

2023.6.14(水) 平岡先生は総合内科の周術期マネジメントというジャンルでの教育に非常に力を入れていらっしゃいます。今回の講演では、参加者の方々が周術期医療に興味を持つこと、そして周術期における総合内科医の役割の重要性を知ることを目標に具体的な症例を交えながらお話していただきました。



講師：平岡栄治先生
東京ベイ・浦安市川医療センター
副センター長 総合内科 部長

第26回「GIMのススメ ～主治医力を高めよう～」

2023.7.12(水) 多くの健康問題や疾患を抱える患者さんを適切に診療できるジェネラリストの存在が重要だと言われている昨今では、総合診療内科医には①今日明日どうするかといった「近くを診る眼」と、②患者さんの退院後や数年後といった「遠くを診る眼」の両者が必要であり、問題点を統合して全体像を判断できる力が求められていると説明して下さいました。



講師：江原淳先生
東京ベイ・浦安市川医療センター
総合内科部長 内科専門研修
プログラムディレクター

第27回「臨床医が知っておくべき疫学 ～医療・健康の専門家として押さえておくべき基本～」

2023.8.9(水) 「○○の人は、××のリスク」。こういった主張の基となるのが疫学研究、或いは多少なりとも疫学的な考えに基づいて集められたデータですが、意図的か無意識か、データの不正確な解釈に基づく誤った主張や誤解を招く主張も散見されます。松尾先生は、それらのデータを客観的に解釈するための基本について解りやすく解説して下さいました。



講師：松尾裕一郎先生
東京大学大学院医学系研究科
社会医学専攻 臨床疫学・経済学
博士課程

YouTubeにてアーカイブ配信しています！



現地で参加者を生取材!

クリニカルクラークシップ

医学部4、5年生(5名)を対象に、2023年春期のクリニカルクラークシッププログラムを実施しました。実際の医療現場に入り、外来診療や病棟回診のシャドーイングをしたり、現地の医学生と交流しながらアメリカの医療を学びます。

日程：2023年3月23日～31日
場所：トーマス・ジェファーソン大学



今回のクリニカルクラークシップでは、参加者の皆さんを現地でインタビュー。体験した内容について感想を聞いてみました!
(順不同)



高知大学 医学部 医学科5年生 笹岡歩乃佳さん

シミュレーションクラス

シミュレーターを使用して疾患ごとに異なる心音を聞き分ける勉強をしました。先生がシミュレーターの設定をして聴診器を当てると、実際に聴診器を当てていない私たちにも同じ音がリモートで聞こえてくるというものでした。また、先生は病気ではなく人を診るということは何度も強調されていました。患者さんの話を聞き、人として向き合うことをとても大事にされている先生と出会って、アメリカに来た甲斐があったと心から思います。



復旦大学 上海医学院 5年生 飯島由佳さん

各科のシャドーイング

内科や家庭医療、小児科、腫瘍内科など、1週間という短い期間の中で色々な診療科を見学できるため、このプログラムだからこそ得られる人脈やアメリカのシステムがありました。日本の場合は基本的に医師を中心とした医療チームが患者さんの治療方針等を考えますが、アメリカの場合は本当に患者さんを中心にして(患者さんの意思を尊重して)考えていくということが大きな違いだと感じましたし、非常に大きな学びとなりました。

JeffHOPE



北里大学 医学部 医学科5年生 藤井壽さん

ホームレスや経済的に困窮している方々に対して医療を提供する現場は日本では中々見ることができないため、JeffHOPE(医療ボランティア活動)は渡米前から魅力を感じていました。利用者の方々とは軽く話す程度を想像していましたが、実際は医学生が運営している小さな病院といった感じで、問診をはじめ保険や精神的疾患の有無の確認などをしっかりと行っていました。他の医学生や薬剤師との連携も徹底されており、アメリカのチーム医療を学ぶことができました。

外来



藤田医科大学 医学部 医学科5年生 赤座万桜さん

外来では1人の患者さんにかかる時間がとても長いと感じました。私が見学した腫瘍内科外来では1人の患者さんに対して平均20分から30分、新しい患者さんの場合は1時間ほどかけており、患者さんが抱えている不安を取り除くようにじっくりと時間を使っている様子でした。また、カルテ上のチャット機能により他科との連携がスムーズに行われていたことも印象的です。効率的なシステムなので日本も取り入れるべきではと感じました。

特別講義



名古屋大学 医学部 医学科4年生 徳永康太さん

レクチャーをして頂いたウェイン先生は、患者や部下など誰に対しても平等に接するだけでなく、臨床も研究も教育もできる方で、先生にお会いできただけでもこの研修に参加してよかったと思えるほどでした。私たち日本の学生に対する細やかな配慮や一人一人にかかる時間などは素晴らしく、人間力が本当に素敵だと思いました。こういった先生がアメリカには数多くいらっしゃるのかと思うとアメリカの環境がとても羨ましいです。

研修のスケジュール

3/23(木): 学生寮にチェックイン

24(金): オリエンテーション

25(土):

26(日):

27(月):

28(火):

29(水):

30(木):

31(金):

キャンパスツアー	救急科	
フリー	フリー	
内科 (チームラウンド)	腫瘍内科外来	JeffHOPE見学 (医療ボランティア活動)
内科 (チームラウンド、カンファレンス)	シミュレーションクラス	JeffHOPE見学 (医療ボランティア活動)
救急科 (レジデントカンファレンス)	特別講義	JeffHOPE見学 (医療ボランティア活動)
家庭医療科外来	シミュレーションクラス	
消化器科外来	小児科外来	修了式

インフォーマーシャル情報

ぜひ映像でも生の声をご覧ください!

学生たちのインタビュー内容をまとめた5分間のドキュメンタリー動画



動画はこちらから

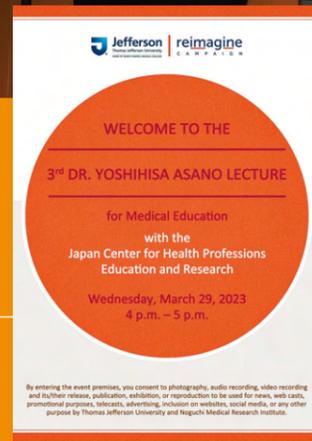




トーマス・ジェファーソン大学にて 第3回 Asano Lectureを実施

場所：トーマス・ジェファーソン大学
 日 程：2023年3月29日(水) 16:00～
 参加者：73名(現地55名、オンライン18名)

講演者：佐野潔先生
 テーマ：Empathy and the culture



野口医学研究所とトーマス・ジェファーソン大学との間で実施されてきた持続的な交換プログラムが相互に有益であると認められ、トーマス・ジェファーソン大学は浅野嘉久の多大な功績を評価して、2017年に権威ある講座(Asano Lecture)を設立しました。第3回目となる今回は新型コロナウイルスパンデミック以来4年ぶりの開催となり、現地とオンラインでのハイブリッド形式にて実施されました。佐野潔先生(高知大学医学部教授、当財団理事長)が講演した「Empathy and the culture」に、参加者は皆興味深そうに耳を傾けていました。



講座開設の立役者である野口医学研究所 創立者・名誉理事の浅野嘉久



佐野潔先生による講演

Asano Lectureシリーズ 全体のテーマ

Asano Lectureシリーズは、医療分野における人間性と共感の重要性(Humanity & Empathy in Medicine)を一貫して強調しており、毎回野口医学研究所に縁のある医師がこのテーマに沿った講演を行っています。

管理栄養士向け スキルアップセミナー



単に管理栄養士・栄養士といっても、企業や給食施設、病院で勤務している方、フリーランスの方など働き方は三者三葉です。また、資格を持ってはいるものの管理栄養士・栄養士としては働いていない、出産等によるブランクや不安がありつつも今後資格を活かして働きたい、という方もいらっしゃいます。野口医学研究所では、こういった様々な状況にある皆さんが少しでも自信を取り戻し、管理栄養士・栄養士の働き手を増やすことが出来ればと願い、スキルアップセミナーを開催しています。

これまでに開催したセミナー

実践型 ロープ有

管理栄養士のための コミュニケーションを深める 4つのポイント

【日時】▶▶▶ 10月19日(水) AM11:00～PM12:30
 ▶▶▶ 11月16日(水) AM11:00～PM12:30
 ※同じ内容で2回開催します。2度参加して60K

【会場】▶▶▶ 野口医学研究所会議室
 東京都港区虎ノ門1-12-9
 スペース・スズキビル4F
 野口医学研究所
 管理栄養士 中西香子

【講師&ファシリテーター】▶▶▶ スズキアキ子
 管理栄養士 中西香子

●セミナーの方法(ワークショップ&マツダの)
 ●一歩進んだコミュニケーションのとり方
 ●相手の言い伝えを正確に理解する方法

セミナーの内容はこんな場面で活用できます

参加費 無料

健康食品

オンライン まるわかりセミナー

健康食品の知識を学んで明日からの
お客様対応に活かしませんか?

実践形式!! 学校では学ばない!

【開催日程(ZOOM開催)】
 2022年12月23日(水)
 11:00-12:30 定員50名

【こんな質問に答えていますか?】

Q. どの健康食品は効果的ですか?
 Q. 効果的な健康食品の選び方?
 Q. 体に悪い健康食品はありますか?

【わかりやすい・実践的・役に立つ】
 「健康食品まるわかりセミナー」をおすすめします。

参加費 無料

管理栄養士のためのスキルアップセミナー

身体組成のハナシ

-BIA(生体電気インピーダンス法)を中心に-

【講師】▶▶▶ 女子栄養大学
 栄養科学研究所副所長
 准教授 香川 雅孝 先生

【日時】▶▶▶ 4月20日(水) 14:00～15:00

【参加方法】▶▶▶ ZOOM

【ZOOM情報】▶▶▶ ZOOM ID: 821 2147 2768
 パスワード: 702662

【参加費】▶▶▶ 無料

管理栄養士向けスキルアップセミナー

女子栄養大学准教授による

日本食品標準成分表(八訂) 増補2023年 の活用法

【内容】
 日本食品標準成分表は、私たち5日日常摂取する食品の成分に関する基礎データとして専門分野から家庭での食事・健康づくりにまで幅広く利用されています。七訂から八訂への改訂では、エネルギーの算出方法が変わりました。
 最新の食品成分表の算出方法を分かりやすくお話しします!

【講師】
 女子栄養大学 栄養学 准教授
 宮澤 紀子 (みやざわ のりこ)

【日時】
 2023 6月27日(火)
 11:30-12:30

【ZOOM情報】
 ミーティングID: 336 245 2379
 パスワード: 43ECR4

参加費 無料

管理栄養士向けスキルアップセミナー

女子栄養大学准教授による

健康無関心層への 効果的なアプローチ・ コミュニケーション術

【内容】
 ・行動変容を促す様々なバイアスとは
 ・無関心層に対するツツメ(継続率)を用いたアプローチとは
 ・食生活支援の実践例

【講師】
 女子栄養大学 栄養学 准教授
 林 美英 (はやし みえ)

【日時】
 2023 8月2日(水)
 11:00-12:00

【ZOOM情報】
 ミーティングID: 336 245 2379
 パスワード: 43ECR4

参加費 無料

管理栄養士向けスキルアップセミナー

女子栄養大学 教授による

高齢者の食・栄養と その最新情報

【内容】
 今回の講義では、これまで健康長寿の疫学研究と地域保健活動を行ってこられた実績と経験を基に、高齢者の食と栄養についての最新情報をご講義頂きます。

【講師】
 女子栄養大学 栄養学 教授
 新開 省二 (しんかい しょうじ)

【日時】
 2023 9月21日(木)
 13:30-14:30

【ZOOM情報】
 ミーティングID: 336 245 2379
 パスワード: 43ECR4

参加費 無料

管理栄養士交流会・勉強会の公式LINEアカウント

お知らせやセミナー視聴URLは公式LINEより配信しています。



受賞者4名(後列中央)、香川明夫学長(前列中央)、浅野嘉久(前列中央右)

女子栄養大学大学院入学生奨励 第9回『浅野嘉久賞』授与式

米国財団法人野口医学研究所は、2023年6月28日(水)に女子栄養大学・坂戸校舎に於いて第9回「浅野嘉久賞」の授与式を行いました。「浅野嘉久賞」は、女子栄養大学大学院修士課程に進学する優秀な人材に対して研究の質の向上と高度専門職業人養成を目的として授与するもので、ファンドには当財団の創業者・名誉理事である浅野嘉久の名前が付けられています。今年度は4名を選出し、授与式にて給付決定通知書を手渡しました。

野口医学研究所は栄養士や管理栄養士等、食に関するプロを目指す学生が一人でも多く夢や希望を叶えられるよう、今後も応援してまいります。

■女子栄養大学大学院入学生奨励「浅野嘉久賞」奨学金

対象 学部成績が優秀、かつ卒業研究に熱心に取組んでいて、卒業研究の指導教授の推薦があり、さらに大学院入学試験に優秀な成績で合格した者。

支給人数 4名/年

支給金額 1年次 300,000円、2年次 300,000円 計600,000円を給付

過去の授与実績

第1回 2015年 … 2名	第4回 2018年 … 2名	第7回 2021年 … 4名
第2回 2016年 … 2名	第5回 2019年 … 4名	第8回 2022年 … 4名
第3回 2017年 … 2名	第6回 2020年 … 4名	第9回 2023年 … 4名



香川明夫学長による授与



浅野嘉久による授与

認知症予防のための食栄養
～認知機能低下者の心身機能および栄養摂取の特徴～

女子栄養大学大学院
栄養学専攻 栄養学専攻
地域保健・老年学研究室

金子絢美さん(1年)

Q1

女子栄養大学大学院で研究しようと思ったきっかけは?



予防医学に興味があり、食を通じて人々の健康寿命延伸に寄与したいと思い、女子栄養大学に入学しました。学部での学びを深める中で少子高齢化問題により社会保障費用の増加による財政の逼迫が課題であると感じ、高齢者の健康について深く考えるようになりました。卒業研究では地域在住高齢者の認知機能低下者の心身機能および栄養摂取の特徴について研究を行いました。卒業研究を行う中で、研究方法や統計方法など研究の基礎について知識不足を痛感し、さらに学びを深めたいと思いました。食の専門家である管理栄養士は、科学的根拠に基づいた発言が求められるため、そのために論文を正しく読み、伝える力が必要であると感じました。また、フィールドワークを通じて視野を広げ、専門性を高めたいと思いました。このような理由から大学院への進学を決めました。

Q2

研究内容について教えてください。



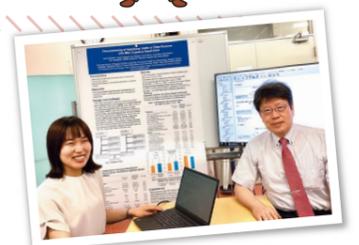
地域在住の中食を利用する高齢者の健康や栄養摂取状況の特徴について研究したいと考えています。中食とは、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等お弁当や惣菜など調理済みの食品を購入して食べる食品を指します。地域に住む高齢者の食物アクセスや栄養状況、健康状態を知ることが重要であると感じ、どのような食物入手先から食品を選択し、摂取しているのか調査し、今後どのような環境的アプローチが必要であるか検討していきたいです。管理栄養士はPDCAサイクルを回すためにまず課題の抽出が必要であるため、高齢者の背景や現状を把握するための研究をしたいと考えています。

Q3

この研究を通して実現したいこと、今後の展望についてお聞かせください。



地域在住高齢者の中食の取り入れ方を知り、今後どのように食事に取り入れるべきか検討したいと考えています。中食を上手に食事に取り入れるには、管理栄養士の視点から食物のアクセス先でナッジを用いた取り組みを行い、人々の健康維持増進に繋がる方法を模索していきたいと考えています。そのためには人々のヘルスリテラシーを高めることにも興味があるため、自然に健康になれる食環境づくりにはどのようなことが必要であるのか学んでいきたいです。大学院で勉強できることに感謝しながら、挑戦し続け、夢を実現できるよう努力して参ります。



病理レジデンシーを見据えた Jefferson病理での研修

氏名：西川裕里香先生
所属：東京大学医学部附属病院
病理専攻医

研修期間：2023年8月14日～8月26日
研修科：病理診断科(Pathology)
研修施設：トーマス・ジェファーソン大学病院



Residency Program DirectorのDr. Joanna Chan(中央)と共に

はじめに

私は現在、9月から開始される米国病理レジデンシーマッチングに応募する準備をしております。米国の病理でレジデントや指導医の仕事を見学したり、レジデントに求められることなどのお話を聞けたらと考え、この研修に参加させて頂きました。

1 週目 Anatomical Pathology (AP)

※日本では病理はこのAnatomical Pathologyに当たる。

レジデントのローテーションの大部分は外科病理で、切り出し、組織診断、迅速診断、解剖、法医解剖などが含まれます。Jefferson大学病院では外科病理が臓器ごとに分かれており、レジデントは1～数ヶ月ごとに各分野をローテートしていました。1週目は毎日、Dr. Chanが専門とする婦人科病理で実習をしました。

2 週目 Clinical Pathology (CP)

※日本では臨床検査学に近い分野。アメリカでは病理に含まれる。

Transfusion Medicineの医師は、輸血・血液浄化療法を行う病棟患者のコンサルテーションを受けたり、外来患者を診たりしています。アメリカでは病理医の中で最も臨床に近い仕事と考えられます。MicrobiologyやChemistryは検査の管理と質の担保、また医師からのコンサルテーションに回答すると言った仕事をしていました。どの部署においても、指導医や技師が詳しく説明をしながら見せて下さいました。Microbiologyでは培地に生えている細菌のコロニー観察や細分類するためのテスト、Transfusion Medicineでは採血と自分の血型検査、ChemistryではMass spectrometryの原理の勉強と実際に検体を使用した測定なども行いました。

研修を終えて、 特に米国病理の特徴であると感じたこと

①サブスペシャリティの豊富さ

米国のアカデミックな施設のレジデンシーでは、臓器ごとの細かい専門分野に分かれたローテーションが可能です。各分野の専門家から指導を受けることでより効率的に深い学びが得られると感じました。またFacultyとして働く場合も、専門分野に分かれることは、ある分野に特化した診断・教育・研究を行いたい場合には大きなメリットであると思います。

②教育体制

レジデントは各分野の指導医と一緒に全てのスライドを見直し、1:1の教育を受けられます。毎日指導医と一緒に顕微鏡を見ながら学ぶことで、細かい疑問についても質問することができ、一人で本や資料を見て勉強するよりも理解が深まりました。



修了式

上記の気づきを通して、自分が米国で病理を学びたい理由や将来希望する方向性がより明確化できました。研修に関わって下さった皆様に心から感謝申し上げます。特に、病理診断科の指導医やレジデントの皆様には様々なことを教えていただきました。ありがとうございました。

Jeffersonの病理診断科レジデントの1日

AM

PM

- プレビュー
事前に組織標本を見て自己診断
- サインアウト
指導医とともに診断チェック
- レクチャー
レジデント、専門研修医によるプレゼン
- カンファレンス
珍しい症例の共有
- 切り出し
検体から必要部分を「切り出し」て標本にする作業

サインアウトやカンファレンスを行った部屋

このように外科病理は一日中イベント続きで忙しく、レジデントにとっても過酷であると言っていました。私には各分野の専門の先生方から次々と教育を受けられる環境はとても魅力的に思えました。また、解剖見学の際は、日本よりも病理アシスタントが担う役割が大きいことに驚きました。

40周年 記念特集 — Vol.3 皆さまへの 感謝を込めて

野口医学研究所が40年に亘り医療従事者の留学支援や医学交流活動を継続できたのは、偏に皆さまの温かいご支援ご協力によるものと心から感謝しています。2023年4月14日には、皆さまへの感謝の想いを込めて、学士会館(東京都千代田区)に於いて「創立40周年記念式典」を開催しました。



News

ホノルル市が 「Dr.浅野嘉久&野口医学研究所の日」を制定

記念式典にて、ハワイ州の代表的な教育機関であるハワイ大学への永年の貢献と支援が認められ、ホノルル市により2023年4月14日が「Dr.浅野嘉久&野口医学研究所の日」に制定されたことがハワイ大学医学部元医学部長のDr. Jerris R. Hedgesから報告されました。



研修生受け入れ先の教授が語る想い

2023年3月30日 インタビューにて



トーマス・ジェファーソン大学には世界各国から学生たちが学びに来ます。そして、日本からアメリカを訪れ、本学の教育を受けてもらえる事を嬉しく思います。アメリカ、特に本学で研修を受けるメリットは、患者にフォーカスを当てた“患者中心の医療”を学び、それを日本に持ち帰ることができる点だと考えています。野口医学研究所と本学は30年来のお付き合いがあります。長年に亘り良い関係性を継続してきたことは大変素晴らしく、改め

て、野口医学研究所のDr. Asanoと本学のDr. Gonnella、両者の功績を称えたいと思います。この関係は日本とアメリカ双方の医学教育、そして医療の発展に多大なる影響を与えていると確信します。本当にありがとうございます。次の40年ご発展をお祈りしています。創立40周年、おめでとうございます。

Dr. Charles A. Pohl

トーマス・ジェファーソン大学 学生課 副学長
浅野ゴネラ医学教育センター センター長



Noguchi Times

Vol.31

発行：2023年11月
編集：〒105-0001東京都港区虎ノ門1-12-9
スズエ・アンド・スズエビル4階
TEL.03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所
<http://www.noguchi-net.com>